

男女平等への長い列 私の履歴書

著者は「均等法の母」と呼ばれ、男女平等を一貫して求め続けてきたパイオニアである。おおらかで楽天的で包容力のある人柄がわかるこの「自叙伝」は、みずみずしい文章でつづられており、読みやすい。理不尽な現実に悩む多くの人々にも、ぜひ本書を薦めたい。公私にわたる難局を果敢に受け止め、高い志を抱き続けて努力を惜しまない著者の生き方そのものが、大切なことを教えてくれるからだ。

著者は、職業をもつという幼いころからの夢を抱いて労働省に入り、海外研修で国際的視点を学びながら、不遇の時代は「雌伏のとき」と思い、研鑽に励む。後にチャンスが巡ってきて、国連公使として女性差別撤廃条約※の審議に関わり、均等法を制定し、女性差別撤廃委員会の委員、ウルグアイ大使、文部大臣を経験。そして93歳の現在でも、NGO活動をしながら、男女平等の志を後輩たちに伝え続けている。

メッセージは、本書のタイトルに示されている。著者は、先人たちが切り拓いた「男女平等への長い列」に加わることにより、多くの仕事ができたという。研修先の米国で学んだのは、世代を超えた「友達」の大切さ。長い人生を支えてくれたのも「友人」だった。その通りだと思う。男女平等への歩みは、けっして孤独なものではない。世代を超えた「共同作業」だ。私もこの長い列に加わりたい。本書を読めば、そう願う女性たちがきっと増えるに違いない。

早稲田大学 名誉教授 浅倉 むつ子さん

※なお本書では、女子差別撤廃条約・委員会という公定訳が使われている。

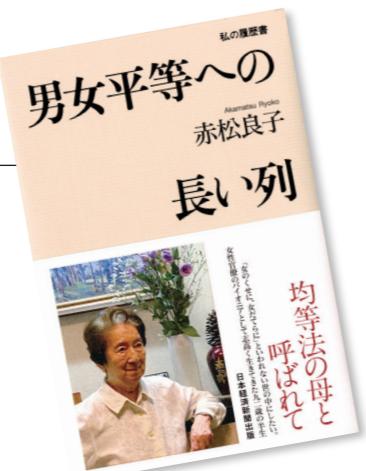
コロナと女性の貧困 2020-2022 サバイブする彼女たちの声を聞いた

本書は、新型コロナウイルスによるパンデミックに重なる2020年から現在までの私たちの社会の生きづらさを浮き彫りにしたルポルタージュである。著者の樋田敦子さんは元新聞記者であり、社会の不条理の犠牲となりやすい女性たちのリアルな姿を、共感を持って克明に描写している。

本書に登場するのは「早朝のバス停のベンチで殺害された女性ホームレス」「凄惨な児童虐待事件の加害者となった、自らも虐待を受けてきたシングルマザー」など多様であるが、貧困や虐待、DVなど「誰かの助けを必要とする人の姿」は私たちには見えにくく、渦中にいる本人は自分が窮地にあることすら気づきにくい。社会に頼ってはいけないという過剰な自己責任論がはびこる中で、ぎりぎりをとうに超えている人が我慢を強いられている現実もあるだろう。また、「どの相談窓口の、誰に相談するか」によって、生活や人生が変わってしまう現実もある。福祉の相談窓口でありながら、助けを求める人に「正論」を振りかざし、生きる希望を奪ってしまう例が本書にも生々しく描かれている。少なくとも本書は、新型コロナとジェンダー問題を通して、私たちの社会は思ったよりも脆弱な基盤の上に立っていることを理解するきっかけになるだろう。

トピックである「女性新法」についても、期待とともに課題も指摘されており、ジェンダー問題に関心のある人や、福祉事業所や行政機関で相談支援業務に従事している人に一読をお勧めしたい。

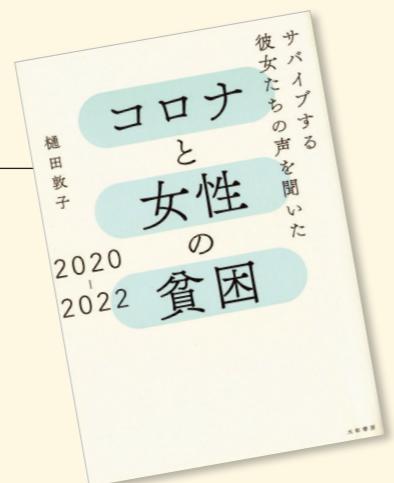
北九州市障害者基幹相談支援センター まつもと あさこ
相談支援担当課長・小児慢性特定疾病支援室長 松本 麻子さん



- 赤松 良子 著
- 日経BP
- 日本経済新聞出版
- 2022年初版
- 1,700円(税別)

女性差別撤廃委員会

女性差別撤廃条約にもとづき、1982年10月に設置された国連の委員会。締約国の定期報告を審議して「総括所見」を作成し、条約の解釈文書「一般勧告」を策定する。また、選択議定書に基づく「個人通報」を審査して見解を出す。締約国会議で選ばれる23人の専門家から構成され、委員の任期は4年。日本からも1人ずつ委員が選出されており、赤松良子氏はその初代。現在の委員は秋月弘子・亜細亞大学教授が務める。



- 樋田 敦子 著
- 大和書房
- 2022年初版
- 1,600円(税別)

女性新法

正式名称は「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」であり、女性支援のための新たな根拠法として2022年5月に成立(2024年4月施行)した。困難を抱える女性への支援は売春防止法が根拠法とされてきたが、女性をめぐる課題は生活困窮、性暴力・性犯罪被害、家庭関係の破綻など複雑・多様化していることから、孤独・孤立対策の視点も踏まえ、相談支援機能の充実、民間団体との連携などの施策を盛り込んでいる。

裸で泳ぐ

詩織さんには、一度お会いしたことがある。性暴力根絶を目指すフラワーデモ福岡に、メッセージをいただいた時だ。しばらく真剣な表情で考え、ペンを走らせた彼女の言葉は—

「今日、この世界に生きていてくれて本当にありがとう。I'm with you, with love♡」

それは、当事者をそっとハグしてくれるようだった。

本書の出版を知り、前著『Black Box』以降の、回復の物語と、社会を、司法を変えねばと真っ直ぐな使命感で走り続けている彼女の、しなやかな強さの源泉に触れられると期待したが、それ以上だった。複数の民事裁判を抱えながら、自分を整え、取材先へ飛び回る、出会いの物語でもあり、幼い日の悪夢も、置き去りになっていた怒りも、深く抱きしめる、自己受容の物語でもあった。

性的同意を知らなかった中学時代、元彼との再会、恋人との別れ、パートナー探しをしながらも、心から望んでいることかと、疑いを手放さない冷静さ…恋愛に関するエピソードからは、私の人生を生きる!という声が、力強く響いてくるようだ。

性別、肩書、過去のどんな経験も、するりと脱ぎ捨て、自分に還る。そのためのヒントと、エネルギー・チャージの方法を、惜しみなくシェアしてくれているのは、愛のなせるわざだ。彼女の「丁寧に金継ぎしてきたような土台」を彩るすべてを、ぜひ本書で味わってほしい。それは、あなた自身が置き去りにしてきた小さなあなたと、出会わせてくれるはずだから。

臨床心理士、ムーブ特別相談員 黒瀬まり子さん



- 伊藤 詩織 著
- 岩波書店
- 2022年初版
- 1,600円(税別)

性的同意

明治時代から110年ぶりに見直された改正刑法でも、性的同意年齢は13歳。暴行脅迫要件を満たさねば、つまり性的同意がないだけでは強制性交罪は認められない。今年の刑法改正で、性的同意年齢は16歳へ、罪名は不同意性交罪へ変更の見込みだ。食事や酒を共にしても性的同意ではない。性暴力をなくすには、互いの境界線を尊重し、言葉で同意を得る習慣が不可欠だ。相手に聞き、NOを受け入れる力を、日頃から大切に育みたい。

女の子がいる場所は

九州国際大学 現代ビジネス学部 国際社会学科 教授 大形 里美さん

資料を読み込んで制作されたという本書には、サウジアラビア、モロッコ、インド、日本、アフガニスタンという文化・宗教の異なる5つの国で、少女が女性ゆえに経験する諸問題が漫画で描かれており、読者はそれらを読むことで主人公の少女の初々しい感受性をもって疑似体験することができる。

サウジアラビアとモロッコについては、スカーフ着用、親が相手を決める結婚、一夫多妻婚の家族の日常、高齢女性から示されるジェンダー規範などに対する少女の戸惑いや困惑、そしてイスラム社会内部における考え方の多様性などが描かれている。インドについては、貧富の格差によって生み出される不条理に対する少女の葛藤と克服のあり方が描かれ、日本については両親の離婚を経験した少女、その母親と祖母の間で交わされる会話から日本の女性たちが置かれた状況が描かれている。そしてアフガニスタンについては、戦争で奪われていた教育の機会を取り戻した少女たちの思いが描かれている。

本作品の前半2編はイスラム文化圏、そして後半は、それ以外の文化圏のジェンダー問題について漫画を通して理解を深められる作品となっている。漫画では、映画などでは流れていってしまう大切な瞬間がイラストでクローズアップされる。読者は無意識のうちに作品に感情移入し、主人公の立場に立って考えることができるため異文化理解を格段に深化させることができる。たとえ同じ文化圏であっても、国や地域によって社会状況が大きく異なり、個人によっても考え方が大きく異なるため、どの宗教や文化についてもステレオタイプに捉えてはいけないが、本書は異文化におけるジェンダー問題理解の素晴らしいツールと言えるだろう。



- やまじえびね 著
- KADOKAWA
- 2022年初版
- 740円(税別)